

新宮山彦ぐるーぷ第2350回

上切原から金剛多和の登山道点検等

◇実施日 2月9日(日) 晴

◇参加者 湯川一郎 1名

今日は、本隊の浦向道の点検・整備には行けないため、上切原から金剛多和の登山道の点検に向かった。すでに昨年末に玉置辻から備崎までは点検済みなので、金剛多和まで往復するだけだった。

上切原からの道はいつものように枯枝でいっぱい、水場はチョロチョロながら流れがあった。太い枯枝は極力払いのけながら進み、金剛多和に近づくほど倒木も多くなるが、通行に支障を来す程ではなかった。金剛多和はうっすらと雪があるだけで、1時間半ほどで着いた。時間的に余裕ができたため、復路は紀伊半島大水害により山腹が崩壊した下モ谷西側区域(施工済み)の上部から下ってみることとした。

その際、①緊急時にこのルートが使えるか、②山と高原地図「玉置山・瀬八丁(1989年)」には下ノ谷から金剛多和への実線が記載されているが当時の道が残っているか、③大黒天人岳の巻道の15番鉄塔には下から上がってくる道があったことから、その取りつきがあるかを確認することにした。

その結果、①金剛多和よりの施行箇所から山を下ったが、間伐作業などでつけたテープが一部残っているものの、あまりにも急峻で地面が安定していないこと、降り立った作業道の途中に立入禁止の

表示があるためルートとしては使えない。②下ノ谷との合流地点にある小滝で道らしき形跡があり、左岸には石積の道(崩壊箇所多し)が確認できた。③15番鉄塔への取付きは見つけられなかった。結局、急斜面を慎重に下る必要があり、登山道を下るとそうたいた時間も変わらなかった。



斜面は緩やかに見えるが急峻



左岸に石積の道が残っていた

行動タイム

上切原 08:34 ↓ 10:08 金剛多和 10:11 ↓ 10:38 下降開始地点 10:38 ↓ 11:00 作業道上部 11:00 ↓ 11:28 上切原